柏の芽

発行所
社会福祉法人
柏　学　園
広島県安芸郡府中町
青崎東7-12
TEL (082) 282-6500
発行人　米川　晃
印刷所
株式会社　中本本店
TEL (082) 221-9181

柏学園　七夕会

柏学園　夏祭り

瀬野川学園　盆踊り

安芸柏の実苑通所部　バスレク

これからの居住支援のひとつの在り方として

瀬野柏の実苑　副苑長　香　川　和　己

入所施設は、障害のあるご本人や地域の様々なニーズに対応するため、障害福祉サービスの体系が変わる中、変化しながら地域の基盤として存在してきました。入所施設は利用者への影響が大きいために第一種社会福祉事業とされ、経営安定を通じた利用者の保護の必要性の高い事業として、保護収容という機能を持ち、家族からの虐待、支援者不在で行き場のない人、社会に適応できない人、家族の救済など、セーフティネットとしての役割を果たしてきたと思います。

現在、国の制度は大きく変わり「地域共生社会の実現」「意思決定支援」が掲げられています。入居者の地域移行を求められつつ、現に施設で暮らす入居者の重度化・高齢化への対応、強度行動障害等に対する専門的支援の提供、入居者の生活の質の向上など、入所施設がこれから担っていく役割は多種多様です。当施設でも入所され二十年、三十年生活されている方がおられます。その方たちが高齢化していくということをイメージして行く事が必要です。日常生活活動の変化が起こっていくということ。例えば食事の問題とか、入浴の問題、排泄の問題で戸惑いも出てきます。日中活動のニーズの変化、今まで快活にできた人たちがゆっくりになっていく、周りへの反応性が弱くなっていく、意思決定、意志表出、コミュニケーションにおいても同じような状況が起こってくるでしょう。しかし私たち入所施設の強みは高齢者施設と違い、これまで生活してきたその人の元気な時を知っている職員がいる事です。「若かった頃はこんなことやってたよ」というエピソードがその人の意志表出のヒントになるかもしれません。

利用される人が「誰と」「どこで」「どんな」暮らしをしたいか入所施設も地域の中の居住系サービスの一つの選択肢として選択できればいいかなと考えます。家庭的な雰囲気って何？って考えるのですが、リビング、キッチンなどがある住環境だけを指すのではなく、なによりも、「ここにいれば落ち着ける」「よりどころになる」場ではないかと考えます。利用者がいい表情をされている、心地よく過ごされている瀬野柏の実苑はそんな居住の場でありたいと思います。

幼児発達支援センター
柏　学　園
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

主に就学までの子どもたちが通って来ています。子どもたち一人一人の気持ちと発達段階を充分に理解し、ご家族の方々との話し合いを大切にし、親子共々希望と元気が出る療育を目指しています。

お部屋の中でも楽しみを

柏学園　岡野　マミ

今年も猛暑が続き、七月中旬から熱中症警報アラートが毎日のように発表されていました。プールを控えさせていただく日が続き、プールを楽しみにされていたお子さんもいたと思います。私もプール遊びが好きなので、とても残念でしたが、室内で出来る遊びを考えていくことも楽しんでいます。

室内遊びは色々ありますが、中でもクラスで人気なのが「新聞あそび」と「紙吹雪あそび」です。お家ではなかなか出来ないダイナミックな遊びだと思います。新聞紙遊びでは、新聞紙をたくさん千切り、山のようにしてその上に寝転がったり、山の中に埋もれてかくれんぼをするお子さんもいます。細長く切った新聞を腕に巻いてブレスレットを作るおしゃれさんも！　紙吹雪遊びでは、上に投げてヒラヒラ落ちてくる様子を見上げたり、部屋の真ん中に紙吹雪を集めて団扇で一斉に扇ぐと上昇気流で舞い上がる様子は楽しく、子ども達も盛り上がり「もう一回！」と何度もリクエストがあるほどです。

他にも「風船あそび」では、布団圧縮袋に風船を入れてベッドを作ったり「絵の具あそび」では、大きな画用紙に筆やタンポを使ってお絵かきをする遊びも人気です。なかなか外で遊ぶことが難しい季節ではありますが、これからも室内でも身体を動かす遊びを考えながら、子ども達と日々楽しく過ごしていこうと思っています。

障害者生活支援事業
柏の実苑
（所在地）
安芸郡府中町青崎東
７-12
TEL（082）282-6500

19才から64才までの知的な発達に障害のある方達が、社会参加や自己実現を目指して家庭から通い、職業指導・生活援助を通して日中活動の場を提供しています。

苑生活の楽しみ

柏の実苑　掛　さやか

三年前の新園舎開設を契機に、柏の実苑の利用者さんにとって大きな変化が生まれました。それは同フロアに『プレキンダーガルテンかしわ』が出来たことです。

今までは、なかなか接することのなかった〇～三歳の小さな子ども達のかわいらしい声が響き渡るようになり、とても賑やか・華やかになりました。

特に子ども好きな利用者さんは、朝の元気な挨拶から子ども達との関わりが始まります。廊下でのボール遊びや風船遊びをしている様子を眺めながら「かわいいね」「楽しそうだね」と、にこにこと嬉しそうです。作業中でも、子どもの泣き声が聞こえてくると「大丈夫かな」「何かあったかな」と心配する姿も見られます。

時に、何とか子ども達に楽しんでもらおうと、手遊びをしたりジェスチャーゲームを始める方もいます。子ども達が笑ってくれると満面の笑みで「良かった。うれしい」と話し、お互いに楽しんでいます。

コロナ禍のため距離を保っての関わりですが、今まで接する機会が少なかった子ども達と毎日顔を合わせることで、利用者さん達の笑顔が増えているように感じています。

これからも、苑生活の中で楽しく過ごせる空間を増やしていけたらと思います。

障害児居住施設
瀬野川学園
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある児童の居住する施設です。現在８才から17才までの10名が起居を共にし、基本的生活習慣の自立をめざしています。学齢児は特別支援学校や地域の小中学校へ通い、18才以上の人達は将来の社会的自立をめざしています。

遊ぶことは学ぶこと

瀬野川学園　荒木　周平

私が所属している瀬野川学園では、様々なお子さんが過ごされています。日々を楽しみながらも、それぞれにある課題を少しでも達成しながら成長できるように、日々過ごしています。

あるA君の話です。A君は人が大好き、遊びが大好きなお子さんですが、気になるものがあると手を伸ばして遊び道具にしてしまいます。

A君にとって遊びと生活は同じ線上にあるようで、学校で教えてもらった作業も遊びと化し、学園でのお手伝いも遊びとなっていきます。自分が覚えた遊びは楽しそうに実行しています。

そんなA君ですが、ある時、職員と一緒にタオル干しをしていると、見様見真似でタオルを広げ、職員がやるように物干しに掛け始めました。掛けてほしいと伝えたわけではありませんが、本人が興味を持ち、「遊び」としてお手伝いを始めました。初めはクチャッと引っかけては取ってを繰り返し、なかなか次のタオルを干すまではいきませんでしたが、少しずつ上達し、小さなタオルなら上手に広げて干せるようになってきました。

「遊びは学び」とよく言われますが、子どもたちは楽しいと感じられれば、あっという間に吸収できる力を持っています。また「必要性」を考えられるようになると、苦手な事にも挑戦出来るようになってきます。支援する立場から、この「楽しさ」と「必要性」を感じてもらえるような支援を提供していきたいです。

知的障害者居住施設
安芸柏の実苑
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある方の生活居住施設です。現在35才から52才までの男性20名が起居を共にし、農耕・軽作業・洗濯・清掃などの活動を通して社会参加をめざしています。

笑顔と活力

安芸柏の実苑　荒木　尚里

安芸柏の実苑はコロナ禍でも、利用者の皆さんが、笑顔で安心した日常を送れるように日々職員一体となり頑張っています。

最近は、苑内においての家族との面会も可能となり、保護者の方と利用者さんの嬉しそうな表情を目にすると、こちらまで幸せな気持ちになります。

当たり前の日常や家族、仲間の大切さ、そして日々心身共に健康で過ごせることの有難さ、また食べることで活力に繋がること、コロナ禍の中で改めて気付かされたことが沢山ありました。

利用者の皆さんは、美味しい物を食べている時、とても良い笑顔です。土日などの休日を利用して、苑内売店・お菓子のつかみ取り・カップラーメンを選んで食べるなど、雰囲気を変えながら楽しんでもらっています。特に、苑内売店は、色々な種類の中から、どれにしようか迷いながら選ぶ顔はとても真剣です。

その他にも、つかの間の息抜きでドライブに出かけた時には、苑内とはまた違う素敵な笑顔を見ることが出来ます。

これからも、コロナ禍での制限の多い日々の中で、利用者の皆さんの笑顔と活力になるような支援を考えていきたいと思います。

知的障害者居住施設
瀬野柏の実苑
（所在地）
広島市安芸区上瀬野
南一丁目338-3
TEL（082）894-8958

知的な発達に障害のある方の生活居住施設です。現在36才から89才までの男女40名が起居を共にし、農耕・軽作業・洗濯・清掃などの活動をしています。また、年齢を考慮した体力維持の活動にも努めています。

普段私が心がけている事
瀬野柏の実苑　三原　奈苗

多くの利用者さんを見ている中で、人それぞれに個性があって、その人の得意、不得意があることに気づきました。得意な部分は活かせるような支援をしていき、不得意な場面や嫌いな事に対しては、利用者さんとコミュニケーションをとったり、行動を見たり、意志を確認したりして、無理させるのではなく徐々に出来るようになってもらえたらと心がけています。しかし、ずっとその利用者さんに対応することができないので、職員の中で情報を共有し個々に合う統一した支援を心がけています。

また、利用者の方もその日その時の気分もあるのでうまくいかないことが多々あります。そのたびに新たな発見もありその利用者さんの事がよく知れるので、私自身も成長できている気がします。

この施設は利用者さんにとっては家でもあるので、快適な生活を送ってもらえるようにみんなで楽しめる活動を計画して提供できるよう、職員が皆で意見を出し合い協力をして楽しい生活環境にする努力をしています。また、休日には必要以上の声掛けはせず、ゆっくり過ごしてもらえるようにしています。

これからも、利用者さんと私自身も楽しく生活が送れるようみんなで成長していきたいです。

障害者生活支援事業
安芸柏の実苑通所部
（所在地）
東広島市志和町大字志和
堀字下十日市山337
TEL（0824）33-5690

知的な発達に障害があり、主にグループホームなどで地域生活をしている20名に、日中活動の場を提供しています。「志和福祉ランド」（東広島市）において、農耕・軽作業・洗濯などの活動を通して、社会参加や自己実現をめざしています。

障害者虐待防止法の研修を受けて
安芸柏の実苑通所部　田中　真

パソコンやスマホで動画を見てレポートを出す研修があると聞き、戸惑いながら参加しました。コロナ禍においては人が集まることに制限がかかり、研修会を行うことが難しいことから、この問題を解決するためにスマホでも見られるシステムを導入したそうです。皆が同じ動画を見て情報を共有し、後ほど集まって感想を話し合って意見交換していくことで、協調性も養われると思います。このような研修は、自由な時間に学習できるので、それぞれに自分を高めていくのには有効な方法だと感じました。

障害者虐待防止法についての動画を視聴し、中でも身体的虐待、精神的虐待について身近に起こり得ることだと感じました。身体拘束は虐待で、それが虐待にあたるかどうかの判断は自分がするのではありません。また、障害者が虐待されていることが疑われたら、職員には報告する義務があります。これまで曖昧にされがちであったことに責任をもって対応していきたいです。

また、弱い立場になりがちな利用者を「ご利用者さん」と呼んで尊厳を守っていくことも大切だと感じました。「ご利用者さん」の願いが叶えられるように様々な支援を考えていきたいです。『相手を理解して、安心を届ける存在として、認めて支えていく』そんな支援者になれるよう研鑽していこうと思います。

地域支援事業

たくさんの人とのかかわり

瀬野川学園相談支援事業所　相談支援専門員　次郎垣内　友成

コロナ禍の中でも相談支援は止まる事は許されない仕事だと痛感しています。日々色々な相談があります。ひとつの相談でもたくさんの人のかかわりがあって、ひとりの人を取り巻く環境は、同じではありません。学校、医療、介護、雇用、司法等、様々な立場の人とのかかわりがあり連携を取ることが必要となります。

連携は広辞苑で「同じ目的を持つ者が互いに連絡を取り、協力し合って物事を行なうこと」とあります。連携することが必要とよくいわれますが、それぞれの職種、分野での考え方、視点の違いがあり、一見ズレを感じる場面もありますが、しっかり会話することで同じ方向性、本人の思いを実現することへ向かっている事に気付かされます。本人、家族といろいろな立場の人がかかわる場面で目標、目的を共有することが大切です。いろんな立場の人を一つのチームとして機能させる役割が相談支援専門員にはあります。そう簡単には行かない事ばかりですが。いろんな視点で見る事の必要性を感じます。たくさんの視点を持つことで、本人の思いをこうだ！と決めつけてしまわない、本人の思いを発信できるようになる事につながっていき、より本人の思いや考えがわかるようになると思います。いろいろな視点を持って、考え方を共有してどんな思いを持っているのかを探りながらより良いサポートを見出していきたいと思います。

改めて、「サービス等利用計画（障害児支援利用計画）」の作成は本人の思いを実現するための一つのツールでしかないのです。相談支援専門員は、福祉サービス支給決定を受けるための計画作成をするのがメインの仕事ではなく、本人や家族の夢や希望を叶えるためにかかわる人たちに同じ方向性を示して一緒に考えて行動していくチームを作っていく事が大切な役割だと思っています。

七夕会

柏学園　兵頭　真妃

柏学園での今年度初の行事が七月七日の七夕会でした。

七夕会は、私にとっても柏学園での初めての行事なので「どんな雰囲気なのだろう？」、「子どもたちの反応はどんな感じなのだろう？」と、楽しみでもあり不安でもありました。

七夕といえば、織姫と彦星です。ペープサートで、織姫と彦星のお話をした後、一年に一度七夕の夜に彦星様に出会うことのできる織姫様のために、みんなでかわいい服を作ってあげようと、クラスごとに星や丸をピンクの大きなビニールにペタペタ貼り、生地作りをしました。クラスごとに作った生地を合わせて一枚の大きな生地にして、スカートと羽衣が完成しました。それを織姫様に扮した大人が、華麗にクルクルまわって身につけると「かわいい」という声が聞かれ、みんなで飾りつけたものが服になるなんて「すごい！」といった様子で見ていました。このような反応をみると、初めの不安な気持ちはなくなり、子どもたちにとっても私にとっても楽しい会になったように思います。

そして七夕といえば、短冊です。星に願いをこめて、クラスで短冊を書きました。「プールに毎日入りたい」、「車のおもちゃがほしい」、「仮面ライダーリバイスになりたい」、「エレベーターに乗りたい」、「お友だちと一緒にあそびたい」。ちょうどプールが始まった時の七夕会だったので、プールに関する願い事が多かったようです。これらの願い事が空に届き、叶えばいいなと思います。

みんな大好き！　水遊び

プレ・キンダーガルテンかしわ　萬野　鈴香

不安定な天候が続いた七月でしたが、プレ・キンダーガルテンかしわでは水あそびを始めました。保護者の皆様に水あそびの準備のお願いをし、プールバッグを持ってきていただくと「トトロのタオルなの。」「可愛いの買ったんよ！」ととても嬉しそうに話してくれる子どもたち。私たち大人にとっては何気ない会話かもしれませんが、子どもからすると『話したい・聞いてほしい・見てほしい・早くプールに入りたい』という思いが沢山詰まっているように感じます。その思いをしっかり受け止め、話しながら準備し、皆が待ちに待った水あそびの時間。テラスには小さめのプールや水鉄砲、みんなが大好きなアンパンマンのイラストが描いてある噴水シャワーなど盛りだくさん。子どもたちの目はキラキラと輝き、「うわー！　凄いね。」「早く行こうよ。」と待ちきれず、私、僕が一番に出るんだと小競り合いをするシーンも。テラスに出てからは、プールにダイブする子や温泉なのかと思わせるようなリラックスした表情でしっぽりつかっている子など各々の遊び方で楽しんでいました。昨年購入した噴水シャワーでは、昨年とは違う反応を見せてくれた子どもたち。水が出ていないシャワーの真ん中に立ち待ち構えたり、少し遠くから様子を伺ったり。一人ひとりの性格を考えると日々一緒に過ごしている中での行動とリンクしていて思わず笑みがこぼれた瞬間でした。

ふと昨年の事を思い返すと、顔に水がかかると泣いていた子たちが今年はへっちゃらな顔をして笑顔で遊んでいる姿を見て一年でこんなにも成長するんだなと嬉しい半面、ちょっぴり寂しさも感じます。私たち大人も子どもたちに負けないよう日々成長していかなければと思っています。これからも大切なお子さまをお預かりさせていただいているということを忘れず謙虚に、そして誠実に子どもたちと向き合い、かけがえのない時間を過ごしていきたいと思います。

伝えることの難しさと喜び

柏の実苑　川崎　肇

近年、スマホやドライブレコーダー・ＳＮＳなどの普及・拡大により、コロナ・戦争・災害・事件・事故などの多くの情報がリアルな映像として氾濫し、視覚・聴覚などを通じて知りえることとなっています。もちろん利用者さんの中にはそれらを敏感に受け止め、知りえた情報に戸惑いや不安などとして影響・増幅されてしまう方もいるようです。

この間、〝人が亡くなること〟〝実際に目に見えないことや体験できていないこと〟をどう正しく理解してもらい、不安や恐怖心をいたずらに煽ることないよう伝えていくべきか、私自身苦心し悩むことがありました。とある有名人が亡くなられたとの報道が繰り返される中、ある利用者さんから「○○さんは生きている!?」と登苑のたびに幾度となく投げ掛けられました。この利用者さんからすると〝亡くなったと報道されているけれど、昨日もテレビに出て喋っていたヨ〟という素朴な疑問を解決できないようでした。私なりに「映像は生きていた時のもので（写真などと同じく昔の物で…）、もう亡くなっている」旨、以前の柏の実行事など昔の写真等なども活用し繰り返し伝えていきました。結果、その利用者さんからは、次第にその質問・疑問はなくなっていきました。私の説明・言葉をどのように受け留めてくれたのかは正直わかりませんが…伝えることの難しさとともに、その反面、思いや出来事を共有できたときの喜びを再認識する機会ともなりました。また、命の尊厳についても考える機会ともなりえました。

言葉は使い方により、時に誤解を招いたり相手を不快にさせることにつながることもありますが…、お互いの理解を深めていく上で大きな武器となりえます。どのような言葉掛けをすることが適正なのかを都度検証しつつ、利用者さんとの関係づくり・支援に生かしていきたいと思います。

最高の一日

瀬野川学園　山手　京子

昨年は三園（苑）合同でグループ分けをしてバスレクを行いましたが、今年は瀬野川学園のみで島根海洋館アクアスに行きました。水族館の好きな子どもたちはアクアスに行くことが出来ると聞き大喜びでした。前日、学校から帰ると、いつもなら時間のかかってしまうこともすぐ終わらせ、次の日着ていく服を選んだり、かばんを用意したりと目を輝かせていました。当日の朝もいつもより早く起き、朝ごはんも早く食べ、出発の時を待っていました。当日の天気はギリギリまで雨予報でしたが、子どもたちのパワーが届いたのかとても良いバスレク日和となりました。

水族館についてから、まずレストランで昼食をとりました。自分の好きなメニューを選び、「最高！」と言いながらあっという間に完食していました。その後、グループに分かれて館内を見て回りました。水槽の前にある説明をしっかり読み、実際に見て「あ、ほんとだ」と様々な発見をしながら楽しそうに見ていました。館内では他の方の迷惑にならないよう静かに見て回ることが出来たり、以前は怖くて見ることができなかったイルカショーを楽しむことが出来たりと子どもたちの成長を感じる場面が多くあり、終始笑顔の絶えないとても良い一日となりました。

しかし、買い物では、お金の受け渡しやどのお金を出したらいいのかなど戸惑う子も多く、改めて日々の積み重ねと本物に触れるという経験を増やしていくことの大切さを感じました。

怪我もなく無事にバスレクを終え、県外に出たことでの感染症の心配もありましたが、体調を崩すことはなく、みんな元気に過ごすことが出来ています。

引き続き、感染対策をしっかりと行い、コロナ禍でも子どもたちが楽しかったと思える活動や経験を増やしていきたいと思います。

コロナ禍三年目の盆踊り

瀬野川学園　重永　美紅

八月八日に毎年恒例の盆踊り・夏祭りを行いました。新型コロナウイルスが流行し三年目となった今年は、県内で過去最大の感染者数となったため、各園（苑）での実施となってしまいました。

毎年盆踊りでの楽しみといえば食事です。今年は自治会メンバーを中心に夏前から食べたいメニューを出してもらい、そこから利用者全員に希望を取りました。多数決で決定したのは「お好み焼き、からあげ、ポテト、フランクフルト」でした。自治会では、焼き鳥やいかやき、焼きとうもろこし、じゃがバター等、いつもの夏祭りとは変わったメニューも沢山出ていましたが、いざ集計すると「夏祭りといったらこれ！」という毎年恒例のメニューになりました。

そして、八月に入ると本格的に準備に取り掛かりました。昼食で使用する看板やポスター作り、ゲームで使用する道具の作成、環境整備、浴衣のサイズ合わせ、盆踊りの練習と、毎日大忙しですが、利用者さんは楽しみでいっぱいの表情で準備もはかどりました。

当日は、自治役員の開始の合図で盆踊りがスタートしました。各園（苑）での実施でしたが「炭坑節」「ドンパン節」「ホームラン音頭」をみんなで楽しく踊りました。さすが毎年踊っているだけあって、完璧に踊る利用者さんもたくさんいました。踊った後はお楽しみの昼食です。今年は室内で屋台を再現し、食券と交換する形式で実施しました。職員が「いらっしゃいませ」と言うと「からあげください」と言い、食券と唐揚げの交換をして自分の席に戻ります。少しでも夏祭りの雰囲気が出せるよう工夫し、みんなで「かんぱーい」と言いコップを掲げ盛り上がりました。

午後からはお菓子釣りゲーム、風船割りゲームをしました。お菓子釣りゲームでは釣り竿でお菓子を釣るのが意外と難しく「がんばれー」と応援し合い、風船割りゲームではバンバン割れるごとに叫びながら中にある当たりとはずれを楽しみました。

いつもとは違う盆踊りでしたが、今できる工夫をして楽しく実施することができました。

来年こそは三年ぶりに家族の皆様と楽しい盆踊りが開催できるよう願っています。

今おもうこと

プール活動を通して

柏学園　下方はるな

気温がどんどん高くなり、夏が来たことを強く実感する季節になりました。その中で今年度はプールを実施することができました。新型コロナウイルスの影響で二年間中止していたため、柏学園では初めてというお子さんばかりです。私自身、普段の療育とはまた違うお子さん達の様子から、多くのことを学ぶことができました。

プール活動で使う水鉄砲は大小様々なものがあり、一つ一つ水の出し方も違います。子ども達は大人が使っているのを見て、自分で遊び方を習得しています。その水鉄砲を持ってこっそりと大人に近づき、水をかけていく子ども達もおり、大人の様子を見てどうしたらよいのかと考えているのだなと感じます。

また、初めての大きなプールに驚いてしまうお子さんもいます。そんなお子さんも回数を重ねるごとに少しずつドキドキ感が少なくなりました。大人に抱っこをされた状態でプールに近づいても涙が出なくなり、そのままプールにつかることができるようになる、と少しずつ慣れていく様子を見て、継続していくことの大切さを感じました。

それぞれの季節で特有の遊びの中で、たくさんの経験を重ね、私も子ども達と一緒に学んでいきたいと思います。

手洗いの大切さ

瀬野柏の実苑　上田　龍也

新型コロナウイルスが流行し始めて早二年半が経とうとしています。私にとって新型コロナウイルスは怖い存在ですが、コロナ禍で色々なことを感じ、考えるようにもなりました。新型コロナウイルスの影響で私達の生活は大きく変わり、瀬野キャンパスでも園行事を始めとし、社会体験など利用者の方がとても楽しみにされていることが感染対策により実施出来なくなりました。当たり前にしていたことが当たり前にできなくなり、いかに今までが幸せだったのかを感じます。

ですが、コロナ禍をきっかけに気付かされたこともあります。この二年半の間、私自身風邪や体調を崩すことなく過ごし、利用者の方もコロナ禍以前に比べて体調を崩すことが格段に少なくなりました。こまめな手洗いや手指消毒、手すりなどの消毒、換気をしていること等が大きな理由ではないかと感じます。コロナ禍以前はそこまで意識する事ではなかったことですが、今では当たり前となっており、手洗いうがい、消毒等の大切さを改めて感じました。

新型コロナウイルスは依然猛威を振るっていますが、利用者の方が日々を元気に過ごせるよう、手洗いうがいの声掛けはもちろん、私自身も感染対策をしっかりとしていきたいと思います。

ご協力いただいた関係団体

広島安芸法人会瀬野川支部
支部長　水野　修治様
宗盛　幸江様
河内　健様

編集後記

夏の強い日差しも少しずつ和らぎ始めました。

今後も行事報告等、様々な記事を掲載していきたいと思っております。皆様のご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。